【質疑応答】

≪１学年１学級規模の県立高等学校の状況について≫

中国新聞　公立高校の入学者の状況に関連してお伺いしたいんですけれども。これ，ちゃんと各学校が載っているんですけれども，そのうち，上下高〔等学〕校と東城〔高等学校〕と湯来南〔高等学校〕の３校が，１学年１学級規模でですね，２年連続で全校生徒数 80 人を割ったと。これは，基本計画に基づいて統廃合，あるいは再編とかの対象になるのかどうかというところをまず確認したいんですけれども。

教育長　「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」におきましては，学校の在り方を決定する時期について明示はしておりませんけれども，例年９月の教育委員会会議におきまして，次年度の高等学校入学定員を決定しているということ，それともう一つは〔平成〕30 年〔度〕にですね，２年連続で全校生徒数が 80 人未満だった大柿高等学校や瀬戸田高等学校の対応方針などについて，平成 30 年８月の教育委員会〔会議〕で決定しているという，こういった流れがございますけれども，この３校の在り方につきましても，令和４年８月を目途に様々決定することができるよう，検討を進めているということでございます。現時点でどういう対応をしていくかということにつきましては，８月を目途にということで考えております。

中国新聞　８月というのは，９月の〔教育委員会〕会議で決めるために８月〔ということですか〕。

教育長　そうですね９月だからといって９月に〔決めるということではなく〕，これは担当からお答えいただきましょうか。

沖本学校経営戦略推進課長　これは決定事項ではございませんけれども，先ほど教育長が申したように，８月の教育委員会会議で対応〔方針〕を決定いただくということで，９月に入学定員を発表いたしますので，そのひと月前〔の８月〕には対応方針を決定したいということでございます。

中国新聞　今日の教育委員会会議で，この３校については〔学校活性化〕地域協議会と対応策を検討していくというふうな方針が出ましたけれども。

教育長　基本的には，先ほど〔教育委員会〕会議の方でも出ましたように，学校活性化地域協議会の御意見をいろいろお伺いしつつ，今の学校の現状を分析しつつ，逆算という形になりますけれども，９月に〔定員を〕決定しようと思うと８月の教育委員会会議で〔対応方針を決定する場を〕設けていただかなければならないので，それまでにどうするかということを模索しているようなそういう状況でございます。

中国新聞　分かりました。質問が前後してしまったんですけれども，教育長としても，今回の３校が２年連続〔全校生徒数〕80 人を割ったということに対する受け止めの部分とですね，この３校，いずれも中山間地域になるかなと思うんですけれども，中山間地域を中心にかなり生徒数〔が〕，少子化あたりで減っている状況を，県全体としてどういうふうに今後走っていくか，取り組んでいきたいかというところのお考えもお伺いできますでしょうか。

教育長　全校生徒数が，今お話しがありました 80 人未満となった学校につきましては，要因をしっかりと分析して地元中学校との綿密な連携を図るということですとか，今後，どうやって生徒を確保していくかというような方策を打ち出していきたいと思っております。ただ，いずれにしましても県内の生徒数については御存知のように減少傾向でありますので，範囲をどういうふうに考えていけばいいのか，ここについては地元との連携ですとかあるいは自治体さんとの連携，様々な要因がありますので，それぞれの学校に合った形で県教委としては策を打っていきたいなというふうに思っております。この学校はこういう形，個々の学校がこういう形ということがありますので，まとめてこうだというようなことも申

し上げづらいんですけれども，現状は地域にとっては大切な学校であり，私どももそういうふうに感じております。また，大事なのは〔全校生徒数が〕80 人を割ったからといって，今いる生徒がこの学校に来て良かったというふうに思ってもらえるようなそういう教育活動をやっていかなければいけませんので，この少子化の時代でございますけれども，様々，教育内容等で工夫をしていきたいなというふうに思っております。

中国新聞　最後にすいません。単純にですね，この３校が２年連続〔全校生徒数〕80 人を割ってしまう要因というか，原因は何だと〔お考えでしょうか〕。

教育長　これはですね，各学校によって中学校の生徒数，それと中学校の生徒数も，たまたまこの年度だけ低いという形もあったりですね，来年度増えるということもあったり，あるいはその地元から大体どれぐらいのお子さんが来ていただいているか，パーセンテージですね，ということもありますし，コロナの状況もあったと思います。ひとえにこれというような要因は，なかなか１校１校は分析を今進めているところですけれども，なかなかこれというような，大きくは人口減というところがありますけれども，それだけではないというふうに思っておりまして，それぞれに合った形で私どもとしては，協力体制それから支援の体制をしていくしかないかなというふうに思っております。

≪学校生活におけるマスク着用について≫

広島テレビ　今朝，松野官房長官が，新型コロナ禍でのマスクを，人との距離が十分とれる場合であれば，屋外で外すことも推奨すると述べたかと思うんですけれども，学校生活の中における子供のマスク着用について，今の教育長のお考えを伺えればと思います。

教育長　現時点でも運動時に，屋外でやっていることによっては，これから暑くなっていきますし，大変なことになってしまうというか熱中症になってしまうというようなこともあると思います。松野官房長官の会見，それからその後の県の教育委員会としての方針についてはまだ検討しておりませんので，ここの場でコメントは出来ないんですけれども，マスクも大事です。それから感染防止も大事ですけれども，子供の心のケアを第一に私たちもこの２年間生活をしてきてですね，子供に向けた影響も大分，分かってきたと思っております。どうやったら子供たちが学校で楽しい生活ができるのかということを第一に，しかしながら，感染防止をどうやっていくかということも，ぎりぎりのところではございますけれども，様々検討していきたいなというふうに思ってます。

広島テレビ　これから暑くなるというところで，体調管理の部分でも検討が必要だと思うんですけれども，今の段階では，県の方から学校側に周知するということを考えていらっしゃいますか。

糸崎秘書広報室長　今教育長からありましたように，マスクを運動時に取るということは今も続けてやってはおりますけれども，今〔会見などを踏まえ〕改めてどういうことを〔していくか〕というところは，後ほどお答えさせていただければと思います。

教育長　国の方でもですね，コロナに対するレビューというか，お昼のニュースでも私も見させていただきました。今やっぱり大事なのはですね，子供の体調管理，体調も，体の方の体調と，心の方の調子というのもあると思っておりまして，やっぱり子供の生活をどういうふうに守っていくか。健康面ということでいうと，心の方も大きいかなというふうに思っておりますので，その部分も考えながら，学校生活において，どのような形で対応していくのか検討していきたいと思っております。